

専門家に聞いてみよう

vol.2

学校法人後藤学園 智泉福祉製菓専門学校
精神保健福祉士学科 学科長 森崎大輔 さん



「大切なのは相手を思い想像すること」
そう話すのは智泉福祉製菓専門学校
精神保健福祉士学科・学科長の森崎大
輔さん。障がい者と働く現場の中で今、
私たちができることは__。



■人のために学ぶ場所■

智泉福祉製菓専門学校は、国家資格である「社会福祉士」や「精神保健福祉士」を目指す学科を併設した専門学校です。この両資格は、通常の大学では4年間で学ぶ内容を講義と演習、現場実習を含め1年間で学んでいきます。毎年2月に行われる国家試験に合格すれば、社会福祉士や精神保健福祉士として医療機関や障がい福祉サービス事業所、高齢者施設、行政などで働くことができます。本校の学生は、入学前から福祉を専門に学んできた方ばかりだと想像するかもしれませんが内訳をみると、これまで福祉を学んだ経験のない方が多く、前職では一般の会社員や銀行員、警察官や学校の先生などその経歴も年齢も様々です。特に社会人経験が長い方に関しては、「社会貢献をしたい」という気持ちで入学される方が多く、今まで色んな仕事をやってきたけど、最後は人と関わる仕事がしたいという言葉をよく耳にします。また、障がいの有無に関わらず何らかの悩みを抱えている同僚や仲間と働いた経験から、自分にも何かできることがあるのではないかと一緒に働くためにはどうすればスムーズに働けるのかと、自らが学び支援する側に立ちたいと希望される方も多くいらっしゃいます。

■相手を思い、想像する心が生む共生社会■

精神保健福祉士として障がい者雇用に
関して思うのは、それぞれの障がい者の
特性を理解することから始まるのではな
いかということ。例えば精神、知的

障がい者の方は、実はきめ細やかなことが得意なので、私たちが見落としがちなところをきっちり仕事されます。またデザイン力がある方も多いので、近年着目されている障がい者アートへの可能性も感じていきます。私たちが特性を持つのと同じように、障がい者の方々も多くの特性があるということを理解できればそこが障がい者雇用のスタートだと思っています。

実際に、障がい者雇用を実施している企業さんからよく相談されるのは、障がい者の方とのコミュニケーション方法です。職場の指導担当者さんも毎日の仕事で忙しい中、心の余裕を持って接しているのでは、しっかりとしたコミュニケーションをとれないのではないのでしょうか。身体障がい、精神障がい、知的障がいと人によって障がいの度合いは様々で完全に理解することは容易ではありませんが、私たちはそれを想像することはできると思います。時間をかけてじっくり話せばわかることもあります。慣れてくると当たり前のように接してしまえるところは人間誰しもあります。また精神障がい者の方のように障がいの度合いが目に見えにくい場合、なかなか理解することが難しく、それが「どうコミュニケ



「シヨンをとればいいのか」と感じる所
 いかなどとも思います。だからこそ相手の
 立場に立ち、表情を見て、きちんと向き
 合う。そうすることで、分かり合えるこ
 とは増えてくるのではないのでしょうか。
 私たちが普段働いている中で相手を思い
 接するように、障がい者の方にも同じよ
 うな気持ちを少しだけ持つことができれ
 ば、きっと共感力も広がるのだと思っ
 ています。

■支援機関に頼ることの大切さ■

実際職場に行くとき色々な壁ができてま
 すが、今は様々な支援機関があるので職
 場だけで悩まずにそういった機関を使う
 ことでスムーズになると思います。障害
 者職業センターのジョブコーチやハローワ
 ーク、なかぼつ（障害者就業・生活支援
 センター※P5参照）などの支援機関を上
 手く活用することもポイントです。また
 医療機関の精神保健福祉士なども相談に
 乗ってくれますので、医療機関との連携
 も視野に入れるといいのではないでしょ
 うか。

■誰もが当たり前に共に働く職場へ■

今、障がい者雇用を検討している企業
 や、実際に雇用している企業の方へ伝え
 たいのは、障がいや病気というものは誰
 にでもなり得ることだということです。

私たち自身もこれから年齢を重ねて病
 気にもなることもあるでしょうし、親の
 介護や子育てなど色々なことで仕事を休
 まないといけない場面も増えてくるかも

しれません。働き続けるためには、職場
 の理解があり成り立つことですが、同じ
 ように障がい者雇用に関しても周りの理
 解が深まれば、お互いにもっと働きやす
 い環境に変わっていくのではないでしょ
 うか。企業が社会の中に存在するように、
 社会の中に障がい者の方がいる以上健常
 者と同じように障がい者を雇用していく
 ことが当たり前だと感じています。

障がい者の方と共に働く職場は、お互
 いを思い合うので人間関係も良好なとこ
 ろが多いですし、離職率も低く理想の職
 場だと私は思います。働き方改革とい
 うと勤務時間だけが着目されがちですが、
 そういった点にも目を向けてほしいな
 と思っています。障がい者雇用に限らず、
 職場で働く社員の能力は様々です。企業
 側も従業員が働きやすいように、その方
 の特性、得意・不得意を自然と見極めて
 いると思いますが、障がい者の方も同じ
 です。それぞれどんな仕事に向いている
 かを見つけることができれば企業の大き
 な歯車となり貢献できるのではないで
 しょうか。



厚生労働大臣指定
 学校法人後藤学園

智泉福祉製菓専門学校

〒870-0889 大分市荏隈 1135
 TEL : 097-549-4551

<http://www.gotogakuen.ac.jp/chisen>



大分県の障がい者雇用の現状

大分県の民間企業の雇用状況 (令和3年6月1日現在)

雇用障がい者数は**27.5人**増加、
 実雇用率は**0.04ポイント**増加
 (前年度比)

- ・雇用障がい者数 **3,369.5人**
 (身体障がい**2,212人**、
 知的障がい**721人**、
 精神障がい**436.5人**)
- ・実雇用率 **2.59%** (全国第7位)
- ・法定雇用率達成企業割合 **61.2%**

(参考) 全国の民間企業の雇用状況

雇用障がい者数、実雇用率ともに
 過去最高を更新

- ・雇用障がい者数 **59.8万人**
 (身体障がい**35.9万人**、
 知的障がい**14.1万人**、
 精神障がい**9.8万人**)
- ・実雇用率 **2.20%**
- ・法定雇用率達成企業割合 **47.0%**

大分県の障がい者雇用の推移

